



バレーボールとの出会いに感謝

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課(☎20-15503)へ。



菅澤 美喜子さん
(旧姓・椎塚、野馬込)

神崎町出身。神崎中学時からバレーボールを始め、市立習志野高校時に埼玉国体で3位に輝く。インターハイにも3年連続出場

午前6時19分、神崎駅発

「365日、雨の日も、風の日も、雪の日だって休まず続いた朝練。毎日乗り続けた列車の出発時刻は、今でも忘れませんね」

習志野高校バレーボール部時代に、キャプテン・セッターとして埼玉国体に出場。準決勝で優勝候補に敗れるも、3位に輝いた。

ときはバレーボールブーム。東京五輪で『東洋の魔女』たちが金メダルをとった時代だ。バレーボール強豪校に掛かる周囲の期待は必然的に高く、とにかく厳しい練習、スパルタ教育だった。しかも、監督から一番先に注意を受けるのはキャプテンだ。

あまりの指導の厳しさと、それにくじけてしまう自分への不甲斐なさ…。帰宅後に、親の前で声を出して泣いたこともあったという。

「列車内で泣くわけにはいかなかったので、自宅まで必死で涙をこらえていました。親の優しさに触れた瞬間に、素の自分が出たんでしょうね」

一度だけ、練習から逃げ出したことがある。体育館の屋根裏に、チーム



3位の表彰を受ける菅澤さん(左手前)



開会式で入場行進する市立習志野高チーム

メイトと一緒に隠れたのだ。

「その日の記憶は曖昧なんですよね。きつと、こっぴどく叱られたんでしょ(笑)。逃げたのは、後にも先にもその1回だけでした」

今でも、年に一度はチームメイトと集まるといふ。卒業から43年。しかし、苦楽を共にした『戦友』たちだからこそ、顔を合わせた途端に「すぐに当時に戻る」ことができる。

中学生時代。何気なく友人と一緒に選んだのが、バレーボール部だった。

「あのとき、バレーボールを選んでよかった。厳しい練習を乗り越えてきたからこそ、その後のどんな困難にも打ち勝つことができたんだと思います」

編集後記

ご覧になりましたか。甲子園での地元成田高校の快勝劇。4日に行われた組み合わせ抽選会で1回戦の相手が智弁和歌山と決まったときは正直…。翌日の新聞各紙もくじ運を嘆く選手のコメントばかり。おそらく皆さんも同じような気持ちでテレビの前に陣取られたのではないのでしょうか。ところが終わってみればエース中川君が14三振を奪う力投で見事初戦突破。横綱を土俵に叩きつけたような大金星でした。県予選ノーシードから選手が一球となって勝ち上がってきた成高ナイン、甲子園に成田旋風を巻き起こしてくれそうです。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。